

四年)

(付記)

墨書の釈読は奈良国立文化財研究所鬼頭清明氏による。墨書曲物の展開図は曲物の実測図と赤外線写真により合成したもので、写真撮影は阿南辰秀氏、実測及びトレースは館邦典氏による。

(岩崎二郎)

長岡京木簡(一) 解説付

向日市教育委員会

向日市内から発掘された木簡は現在一二〇〇点を越えるが、その内四二六点の写真図版と釈文三六二点を収録し、付載として墨書土器八六点の図版と釈文二二八点を収録した。

本書は長岡京遷都千二百年を記念して出版したものである。

図版 B4判 コロタイプ写真印刷 五一葉

総説及び釈文 A5判活版印刷 総頁三二〇頁 定価 未定

有限会社 眞陽社

大阪・高宮遺跡

- 1 所在地 大阪府寝屋川市大字高宮
- 2 調査期間 一九八三年(昭58)十一月～一九八四年(昭59)三月
- 3 発掘機関 寝屋川市教育委員会
- 4 調査担当者 塩山則之
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 旧石器時代～室町時代
- 7 遺跡及び曲物出土遺構の概要



(大阪東北部)

高宮遺跡は、生駒山系の西側斜面から派生する洪積層の寝屋川市東部丘陵の南端、海拔二八m前後の北東から南西へゆるやかに傾斜した丘陵地形に位置している。この丘陵上には、白鳳時代創建の国指定史跡高宮廃寺跡が所在している。

高宮遺跡は、一九八〇年から四次にわたって調査が進められてきている。その結果、旧石器時代から室町時代までの遺物、遺構を検